

第2次草津市環境基本計画

現時点での10年間の振り返り

1 共通事項

この10年間の振り返ると、国際的な環境課題として地球温暖化や生物多様性の喪失が取り上げられ、国内においては、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故や気候変動の影響による台風の大型化等の自然災害が多発し、エネルギーの地産地消や災害に強い社会への対応が求められてきた。

本市では、こども環境会議をはじめとする環境学習や、地球温暖化防止啓発の継続的な推進により、地域・学校・企業等が連携するなど本市の環境学習や取組が進められ、定着してきた。

また、生物多様性の取組については、平成21年度の「草津市の自然と共生をすすめるための計画」策定や平成24年度と25年度の2年間にわたって実施した『草津市の自然』の学術調査研究報告、さらに市内の地域や企業が「生物多様性アクション大賞」を受賞される等、第2次計画の期間中に一定の成果を得ることができた。

しかしながら本市においても、これまで環境活動を進めてこられた方々の高齢化・固定化が顕著となってきたことと、環境活動が未だ一部の関心のある者の取組であることも否めない。

2 個別事項

●環境学習社会づくり、

こども環境会議等、環境学習事業を継続して実施し、地域、企業、学校等が連携・協働した環境学習が進められるなど、環境学習を行う市民の学ぶ機会は増えてきている。

●低炭素社会への転換

地球冷やしたい推進フェア、エコフォーラム等の様々な啓発を継続して事業は実施してきたが、市民・企業活動の指標数値は横ばい状況で、目標値と乖離がある。

●資源循環型社会の構築

リサイクルフェアや事業訪問等を通じて、市民一人当たりには換算した家庭系および事業系のごみ量は、いずれも当初は減少傾向にあったが、近年は増加に転じている。

●自然とともに生活する環境づくり

自然環境保全地区の指定が進んだ一方、その管理や地域の協力体制等に課題が出てきている。また、湖南企業いきもの応援団等の企業と地域の先進的な取り組みが生まれたものの、他地域の拡大に繋がっていない。

●環境汚染・公害への適切な対策

下水道整備が目標通り進んでいる一方、河川の環境管理基準が未達な部分がある。法令の規制対象外の事業所についても、啓発を行っていく必要がある。

●うるおい豊かな環境づくり

公園緑地面積等のハード面の整備は進んでいるものの、今後その維持管理や活用に課題が残る。